

ASK ニュース

Vol.0188

2016年1月25日(月)
担当：MS事業部 玉井

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-22-21 損保ジャパン日本興亜名古屋ビル1F
ASK 税理士法人 TEL 052-971-1122 FAX 052-971-4488

もうひとつの給料袋をつくる

はじめに

『トップ1%の人だけが知っている「お金の真実」』（日本経済新聞出版社）という本を読みましたので、ASK ニュースで紹介します。著者の俣野成敏氏は、シチズン時計で年商14億円の社内ベンチャーを立ち上げた経験を、中村将人氏は、上場企業に就職して28歳最年少で本社営業部長になった経験を活かし、お金のコンサルタントをしています。

所得税、社会保険料の仕組みを知れ

筆者は、サラリーマンに、所得税、社会保険料にもっと関心を持ち、仕組みを理解しなければならないということを注意喚起しています。年収300万円の人でも、年間の税金関係コストは100万円にもなります。年収1,000万円以上の方は、半分近く税金関係コストを支払うことになります。特に年収1,000万円以上の方は、真剣に資産防衛対策を行わないと資産を効率的に増やすのが難しい時代です。

働き方の4つのタイプ

筆者は、働き方の4タイプを説明しています。

- ①従業員
- ②ビジネスオーナー
- ③自営業者
- ④投資家

①③は、時間に制約される特性があります。

②④は、人 or お金に働いてもらうという特性があります。

「もうひとつの給料袋をつくる」発想

「もうひとつの給料袋をつくる」という発想が今後のサラリーマンにも必要だと筆者は提言しています。大企業でも退職金がもらえるかわからない、十分な年金がもらえるかわからない、将来に物価上昇が起こるかもしれないなど、不安要素はたくさんあります。

筆者は、サラリーマンに対して、一つの働き方に集中するのではなく、ハイブリッド型で、もう一つ④投資家の発想をもち働くべきだと提言しています。不動産投資、株式投資などを行わないと資産を増やせないし、防衛すらできないのではないかと考えます。投資というと手を出しにくいイメージがありますが、NISAをはじめ、1ルームマンション1室の投資でもよいと思います。

まずは「自分は、もうひとつの給料袋は何がよいにか？」をイメージしてみてください。

